

## 茨城十王町の豎破山ピラミッド

Mt. tatsuware pyramid in Ibaraki Pref.

[泰山の古代遺跡探訪記top^](#)

[豎破山パート2はこちらから](#)

以下は茨城県十王町の山中にある「豎破山（たつわれやま）」の巨石群です。この山は構造的に明らかにピラミッド様式をなしています。

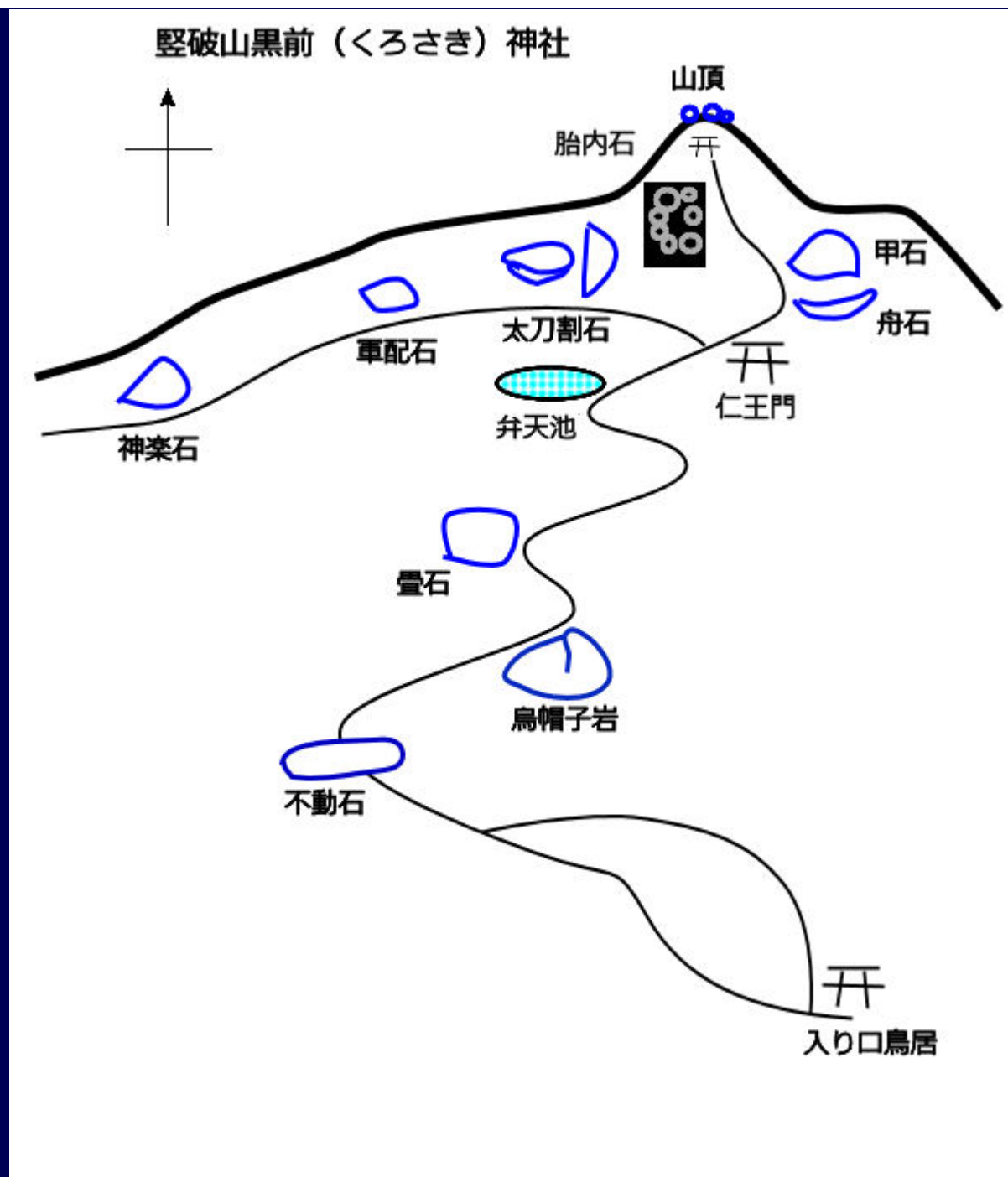
鳥居や神社は勿論後世に建造されたものですが、ちょうど神社の参道を進むようにピラミッドに上ります。その参道の上に典型的な巨石群が点在します。この黒前（くろさき）神社にも広島の高嶽山ピラミッドや飛騨高山の位山ピラミッドと同じように興味ある巨石があります。

次の図は豎破山ピラミッドの概念図で、同じような構造を持った山はピラミッドと考えていいと思われます。日本のピラミッドの特徴として通常挙げられるのは、魅入られるような美しさ、頂上の太陽石（のかげら）、参道上の巨石群、拝殿山との連座、見事な方位、人工が加わった（と見える）部分などがあります。そして多くの場合、神社が存在し、その山が神聖な本殿として尊崇されています。身の回りでも、「そういえば…」と、思い当たる山々がありそうですね！

1996泰山記

2010 高精細画像に置換え+補足

“日本ピラミッド”という表記は、「日本にもエジプトのギゼ様式の全山人工積み上げ型ピラミッドがあるというイメージを誘引する可能性が高いため」、2010年現在、「日本にある（自然の地形を利用しそれに手を加えた）ピラミッド山」というようにしています。ピラミッド型山ではなく、ピラミッド山です。英語で言えば、pyramid shaped mountain ではなく、Pyramid Yama = PY が適切かと…。



600mそこそこの山に夥しい巨石群が存在



1996年当時、買ったばかりの Mustang で 豎破山麓まで行く。細い砂利道だったのであつという間に擦り傷だらけ…〜;;。この鳥居が豎破山登山口になっている。



登山道入り口付近は二股に分かれているが、いずれ道は合流する。鳥居をくぐり参道を登る。「茨城百景 豎破山記念碑」が出てくる。

## なつかせさん 豎破山 あんない

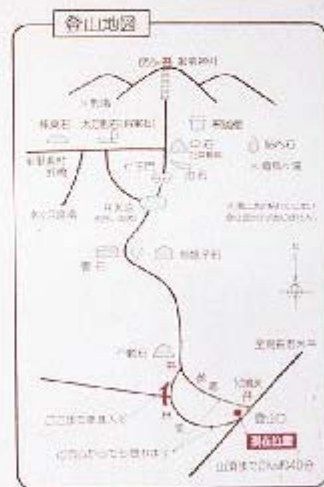
- 概要
  - 公園名 - 花園石見県立自然公園
  - 標 高 - 650メートル
  - 位 置 - 茨城県多賀郡十王町大字黒坂

- 豎破山と黒前神社にまつわる史実・伝説

豎破山は、大森から神武山として知られ、神武時代には神武山といわれ、松竹町には、弘明寺が神武山でもあつた。今の黒前町黒坂にまつには、羽衣姫伝説でそれまで神武山といふ山であったことが神社の多々あると三門秋波堂に記されております。

(1) 聖の黒前神社には、聖域が広がって見えます。其の由来は紀元前9年頃に人、大和朝廷に生じた大逆無道の出身といわれ、常陸川へ流す。今の奥州郡黒坂の土佐。山の山名、神に聖域が広がりました。神に生かされた子、八咫の木を用いて神を鎮し、いはらきの地名を冠した人、と書かれてあります。その聖が聖域鎮守の神。この山の山名とも関係したとされてその聖山上に祀られたといわれております。(その聖域は黒前町黒坂村大字黒坂に広がっております)

山頂近くにある二つに割れた石は、神武九年(西暦二八六年)聖武天皇が黒前山で神武の霊を祀り、黒前神社に御宇に御宇の霊をした時、聖武より後か二つに割れたと伝えられています。その後、765年頃に水戸元親が御宇の霊を祀り、山中に二つの石と三つの山を祀る人、この石を大逆無道と名づけたといわれています。後に、この山の山名により、たづねると、聖武の御宇になつてあります。



十三町・茨城県(観光物産課)

入り口に設置された豎破山の案内板。



暫くすると特異な形態をもった横長の巨石が左手に出現。上には祠もあり、巨石上を清水が流れている。こうした光景は栃木県名草の巨石群や岩手県五葉山のものと同じで、ピラミッド山登拝のための参道入り口付近に多く付帯しているものである。



参道入り口付近の不動石。まさにピラミッドの典型的特徴である。岩手県五葉山の登山口にも ほぼこれと同じ大きさ、形の「置石」がありました。たつわれ山中の「置石」は同名だが、別形態。



側面の平滑面と滴り落ちる清水の様子。上の木枠で囲われた祠は小ぶりの石である。





巨大な烏帽子石。形状からそのように命名されたものだろう。左側に行く登山者と比べればその大きさが想像できるだろう。



烏帽子石から少し登ったところにある“亀石”と思われる巨石。



そのさらに上方には、「手形石」と呼ばれるいわくつきの巨石がある。明らかに深い線刻があるもので、

こういう事例もピラミッド山には多く付帯している。ちなみに伝説では「八幡太郎義家」の手形が残された石だとされている。



参道上の巨石群。



これが「畳石」と命名されている巨石。やや溪谷に向かって下りたところにある。感触的には「畳石」というよりは「天の岩戸構造」を形成している巨石群である。



動物の横顔を思わせる巨石。



平滑面に線刻がある巨石。



井天池と呼ばれる水場。ピラミッド山に付帯すべき「水の浄化システム」もちゃんと存在している。



八幡太郎義家が一刀両断にしたとの伝説がある太刀割石。この「たちわり」が転じて「たつわれやま」になった。



高さが6 m以上もある大きな丸石がまっぴたつに。割れた岩の上面にのっけてあるのが私の携帯電話。大きさが分かりますか？





立っている私と比べると、大きさが分かります。



上に人が立っています。



底面は若干座りが良くなっている。太刀で割ったというのは勿論伝説としても、通常の石工ではこのような鋭利な面は出ないだろう。巨石を裂いた一瞬の巨大なエネルギーはどこから来たのだろうか。



太刀割石の立っている方の巨石を背後から撮影したところ。



神社西方の奥深い山中には 1m×2m くらいの平板な石がある。軍配石と命名されている。形状的には極めて特異で重要と思われる。これに似た石が京都の鞍馬山本堂前にもある。



ブナの大木。残念ながら10年後の2007年には枯れて倒れていた。



神社拝殿側の甲石と舟石



実はこんなに巨大。樹齢数百年の大木が その巨石にしっかりと根を下ろしている。





舟形に割れた舟石



黒前神社本殿へと向かう階段。毎年盛大なお祭りが開催され、ここまで提灯が並ぶという。



立破山頂上間近に鎮座する黒前神社本殿。黒坂命（クロサカノミコト）を祀る。



黒前神社の裏側抜けてさらに山頂へ向けて進む。



山頂間近にも巨石群が夥しくある。



同じく。



山頂部に散在する巨石のかけら。太陽石の跡かもしれない。富山の尖山、広島の高嶽山の山頂もこれと同じような形態をしている。



山頂を抜けて少し下ったところに、「胎内石」と呼ばれる巨大な天の岩戸構造がある。そこにある巨樹。



「胎内石」全景。石とあるが、岩盤と巨石による陰の構造。





「胎内石」の内部は比較的大きな洞窟状になっている。その内部から外を見たところ。



「胎内石」の最奥部。ここにも入れる。

[豎破山パート2はこちらから](#)

[泰山の古代遺跡探訪記topへ](#)